

企画建設常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和5年1月30日(月) 第2委員会室
2. 出席委員 桂藤和夫委員長 吉川遂也副委員長 横路政之 堀井秀昭 政野太 五島誠
松本みのり
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 横山和昭議会事務局議事調査係長
5. 説明員 足羽幸宏いちばんづくり課長
6. 傍聴者 2名(うち議員 近藤久子議長)
7. 会議に付した事件
 - 1 観光振興におけるJR芸備線について
 - 2 所管事務調査について

午前10時28分 開 議

○桂藤和夫委員長 ただいまから企画建設常任委員会を開会いたします。この会議において傍聴、写真撮影、録音、録画を許可いたします。

1 観光振興におけるJR芸備線について

○桂藤和夫委員長 早速ですが、協議事項に入ります。協議事項の1点目、観光振興におけるJR芸備線について、いちばんづくり課足羽課長からまず説明をいただいて後に質疑応答に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 令和4年度JR利用促進事業の観光利用によります、利用客増加に向けた取り組みについて説明をさせていただきます。配布しております資料の1ページをごらんください。1、趣旨・事業目的でございます。令和3年6月にJR西日本からの申し入れを受けまして、令和3年度では9月補正予算に1,516万円、令和4年度当初予算に1,491万円を計上し、「利用促進への市民参画」「生活利用としての利用促進」「市外からの乗客の呼び込み」の三つの柱による利用促進対策を進めております。沿線人口の減少が進み、市民の日常生活における利用増がなかなか見込めない中、鉄道が持つ広域ネットワークとしての特性と、本市の豊かな自然環境や文化を活かした観光利用による利用促進を進めるため、「芸備線・木次線利用促進協議会」を中心とした取り組みを展開しておりまして、令和4年度の取り組み概要及び今後の対応について御説明をいたします。それでは、2、取り組みの概要でございます。(1)協議会における取り組みでございますが、広域ネットワークを利用した観光客を念頭とした観光プロダクト開発等の取り組みを推進することで、観光による芸備線・木次線の利用者増加につなげるために、令和4年度、こちらにお示しをしております4つの事業に取り組んでいるところでございます。まず、①情報発信事業ですけれども、協議会公式ホームページを令和4年6月に開設しました。これにより、両線の歴史、また、市内の駅の紹介や地域チームの活動状況、また、11月27日に開催したシンポジウムなどイベント等の情報

発信を行っておりまして、12月末までに1万件を超える閲覧がございました。また、1月からはSNSを開設し、ホームページと連携した情報発信、拡散を行う予定と記載をしておりますが、既に1月23日にはInstagramのアカウントを取得いたしまして運用を始めたところでございます。ぜひ委員の皆様にもフォローをしていただきまして、情報拡散に御協力いただければと思います。次に、②「ローカルダイブ・トレイン」モニターツアーの実施でございます。観光振興に向け「ローカル志向」の方を本市に呼び込むとともに、鉄道利用の拡大と将来のインバウンドによる観光客増を目的としたモニターツアーを実施するとしております。8月20日に貸し切り列車を活用した日帰りモニターツアーを西城・東城・比和地域で実施しました。広島県内から30人の参加がございました。また、令和5年3月には、より実証に近づけるために定期便を活用した1泊2日のツアーを実施する予定としております。続いて③観光プロダクト開発でございます。自然体験型アクティビティの集積地として庄原市の知名度を向上させ、芸備線の利用促進を図ることを目的に、沿線における観光プロダクト開発を行うこととしております。令和4年度では、庄原DMOにプロダクト開発の業務委託を行い、沿線地域で実施されているアクティビティの実態把握及び現地確認を行い、あわせて、沿線の観光施設の関係者によりますワーキングチームを設置し、アクティビティ実施予定者を巻き込みながら体制づくりを行います。最後に④二次交通確保実証実験ですが、集客があります帝釈峡へ公共交通等で移動できる二次交通体系を整えることを目的とした実証実験を行いました。紅葉ピーク期の土・日・祝日に庄原ライナー到着に合わせた臨時バスの運行を行い、アンケート配布ベースで、72人(延べ174人)の利用がございました。それでは2ページに移りまして、その他の取り組みでございます。協議会事業のほか市予算事業として2点の取り組みを行っています。①シンポジウムの開催でございますが、昨年11月27日、西城町のウィル西城において、芸備線・木次線につながる庄原市、新見市、奥出雲町が連携し、「ローカル線の未来を考えるシンポジウム」を開催いたしました。講師にえちごトキめき鉄道代表取締役社長の鳥塚亮氏を招聘し、地域の観光資源を活用した観光列車、鉄道そのものを観光資源化する取り組みとその可能性、また人呼び込む仕掛けづくりの重要性について講演をいただいております。また、3市町の代表等によりますパネルディスカッションで利用促進策を報告しあうなど、鉄道の持つ役割や重要性、両線を生かした地域振興につながる機運醸成を図っているところでございます。次に②広島市内への情報発信です。広島市内で18万部を発行しますフリーペーパーへ秋の庄原ライナー、先ほど説明しました二次交通確保実証実験で運行した臨時シャトルバスの運行についてなどの記事を掲載しました。続いて3、これまでの成果及び課題でございます。(1)成果としては、「ローカルダイブ・トレイン」モニターツアーの実施や観光プロダクト開発により地域資源の掘り起こしを行うことで、鉄道を利用した観光誘客を図るための仕組みづくりに着手しております。また、シンポジウムにおきます鳥塚氏の講演内容を広く発信することで、市民のマイレール意識醸成が図られたほか、観光利用によります利用促進の可能性を共有することができました。次に(2)課題でございます。沿線地域の強みや魅力を活かしたアクティビティの掘り起こし、また鉄道利用を前提とした観光プロダクト開発は容易ではなく、住民や事業者の協力が必須となるほか、受け入れ態勢、プロモーションなど、定着するまでには一定の期間を要するとしております。最後に4、今後の対応でございます。即効性のある利用促進策はないという認識のもと、引き続き、芸備線・木次線の利用客の増加に寄与するため、鉄道の持つ広域ネットワークの特性や多様な価値を市民と共有し、沿線自治体や関係団体等との連

携強化に努めるとともに、広域観光での利用促進につながる取り組みを着実に推進してまいります。とりわけ観光プロダクト開発につきましては、その動きを本格化させ、令和4年度の業務委託の成果を踏まえつつ、専門家を招聘したプログラム開発やモニターツアーの実施などを行うほか、庄原ライナーの利用者増加、また個人旅行の促進を図るため、二次交通確保に向けた実証実験を帝釈峡以外の観光地でも実施し、市外からの乗客の呼び込みに取り組むとしております。令和4年度JR利用促進事業観光利用によります利用客増に向けた取り組みに係る説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○桂藤和夫委員長 　　ただいま担当課から説明を受けましたけれども、JR芸備線については観光振興にターゲットを絞った閉会中の審査項目としております。それにターゲットを絞った質疑を願いたいと思います。ある方は挙手の上発言をしてください。五島委員。

○五島誠委員 　　先ほど来から協議会が行われたことであるとか、市が直接行われたことであるとかそうした報告をいただいたのですけれども、これ以外にも例えば民間団体であるとか、特に関係の深い庄原DMOさんあたりがされた事業とかもあると思うのです。そうしたもののもし情報がありましたらお聞かせください。

○桂藤和夫委員長 　　課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 　　庄原DMOでは、庄原ライナーが運行されている期間に庄原ライナーツアーというものを実施されています。先ほど申し上げた広島市内の周知に効果がありまして、一昨年少し数字を落としておりましたけれども、一昨年を超える利用者がツアーにあったと聞いております。帝釈峡、それからお通りへ行くツアー、そして木次のスイッチバックのツアーの3種類あるのですけれど、大体200人程度参加をされていると確認しております。

○桂藤和夫委員長 　　五島委員。

○五島誠委員 　　ここにもあります観光プロダクトの開発、この協議会がDMOに委託をしてつくられると思いますので、そうしたことや、先ほど報告いただいたような事業なども含めると、庄原DMOがこのJRの利用促進観光利用の部分についてはかなり大きなウエートといたしますか、役割を占めるのだらうと思うのです。ここで一つ危惧というか、今後どうなっていくのが庄原DMOも確か立ち上げて3年間のところは、市の予算をかなり投入されるということだったと思うのです。今後の庄原DMOの体制であるとか市からの財政的な部分であるとか、そうしたものがどのように変化していくのか。それによって、さらにこれから進めていく観光プロダクトの開発とかに影響があるのではないかということをし少し思いましたので、その辺りを改めて答弁いただければと思います。

○桂藤和夫委員長 　　課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 　　先ほど御説明いたしました「ローカルダイブ・トレイン」につきましても、モニターツアーの実施は協議会が募集できないこともあり、庄原DMOに委託して、庄原DMOのツアーという形で実施をしていただいております。特に「ローカルダイブ・トレイン」につきましては、募集開始から1週間で定員に達しまして、定員は40名だったのですが、そのうちコロナのキャンセルがありまして、30人となっておりますけれども、独自のツアーとして庄原DMOが実施できていくのではないかと。その可能性は多大にあるというところで、お互いに成果を共有していますけれども、そうしたJRを利用したツアーで庄原DMOも収入を確保していただくというところには持っていきたいと。さらに、その取り組みで利用者をふやしていきたいという思いで

ございます。庄原DMOに対する支援でございますけれども、地方創生推進交付金を活用しまして庄原DMOの立ち上がりの部分を支援してまいりましたが、推進交付金は既に終了いたしまして、その成果に基づいて取り組みをされている状況でございます。実際に、今後も主には人件費になるかと思っておりますけれども、財政的な支援がなければ、まだまだ自走できていかない部分があるかと思っておりますので、その辺りは担当課の商工観光課でも措置をすると聞いております。自分たちでお金をもうけていくところをつくり自走していただきたいと思いますと考えております。その中で、ぜひともJRの利用促進策にも絡んでいただいて、特に観光プロダクト開発の部分については、やはり庄原DMOにしっかり動いていただきたいという思いで業務委託もさせていただいているという状況でございます。

○桂藤和夫委員長 他にありませんか。政野委員。

○政野太委員 同じくDMOの関係のことになるのですが、今回この企画建設常任委員会では、観光の視点でお伺いしているのです、令和4年度に実施されて30名の参加があったと。これについてもとは何人ぐらいを想定していて、それらの結果に終わったのか。それからあるいは令和5年の1泊2日のツアー、こういったものについてどういった目標を立てられているのか。JRについては恐らく、主に観光企画をされたのはきよねんが初めてではないかと思うので、これがベースとなって今後、伸ばしていこうとされているのか。とてもではないけれど自走できるような数字ではないと現時点では思いますので、その辺についてはどのように捉えていらっしゃるのか。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 まず、「ローカルダイブ・トレイン」の8月の実績でございますが、先ほど30人ということをお話をさせていただきましたけれども、当初40人の想定でございました。先ほど言いましたようにすぐに定員に達しまして40人で準備を進めておりましたが、コロナで濃厚接触者とか感染されたということで、寸前にキャンセルが生まれて30人となっております。この取り組みにつきましては、令和5年3月に1泊2日のツアーを実施する予定にしております。日帰りのツアーというのが、便が少ないことで、ゆっくり庄原市を楽しんでもらえる時間がなかなかとれないということで、1泊2日。そして8月には、貸し切り列車を借り上げておりますので、それにかなりの経費がかかるということがございます。3月に実施するものについては定期便を活用して昼前に庄原に入って1泊をして、次の日帰っていただくということで、貸し切り列車を借り上げる経費がございません。より実施に近づく取り組みをやってみようということで、現在、庄原・西城・東城の3地域で1泊2日、10名程度を募集してやってみようと考えているところです。こうしたモニターツアーの中で、実証にさらに近づける取り組みをして、これを土台に、来年度いきなり主催ツアーはなかなか難しいとは思いますが、段階を踏みながら、この「ローカルダイブ」という取り組みを進めてまいりたいと考えております。

○桂藤和夫委員長 他にありませんか。副委員長。

○吉川遂也副委員長 JRに関連する事業についてはJR芸備線を存続させていきたいという思いの中で始まった事業と思います。そもそも企画建設が担当する観光振興の部分と市民生活が担当する公共交通という部分との中で、一体となる話ではありますけれども、JRが、例えば、今までの協議の中で、この観光振興にかかわる中、庄原市の取り組みについてどのような評価をしているというお話があればお伺いしたい。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 協議というのが2県2市JRでしている利用促進の協議のことだと思うのですが、その中で、広域での移動という実績はかなり伸びているとJRも数字を把握しておられます。一定の成果は出てきているということで、両者とも自治体もJRも、そういう共通認識には立っているということでございます。ただ、JRは日常利用がなかなか伸びないというところで利用促進の取り組みをしていますけれども、なかなか厳しいですねという意見を言われておりました。一定の成果は出てきているということでございます。令和4年度の「ローカルダイブ」の取り組みでありますとか、観光プロダクト開発の取り組みにつきましては、まだ、お互いに情報共有をしておいておりませんので、今後、どういう評価をされるかというところは、しっかり意見を聞きながらやっていきたいと思っております。

○桂藤和夫委員長 副委員長。

○吉川遂也副委員長 JRという相手のある話なので、庄原市が独自にいろいろ動いても、今後JRとしては黒字化、厳しいかもしれないですが、そういった方向性が見えてきたところで一定の成果が出てくる話なのかと思うのです。今までのこの1年間から来年度に向けて、芸備線とか赤字地方路線は新聞でもいろいろ取り上げられている状況があるのですが、一定の今までの流れとか、昨年度でいえばJRへ協議を申し込まれたけれども、庄原としては受けないという状況になったと。その後今年度どういう流れになって、これは市民生活課の担当かもしれませんが関連するので、把握されている部分があれば、今後どういう協議を進めていく流れになっているのか。今国会へ入ってもらってというようにJRがなっていると思いますが、その後新しい情報提供があれば、情報提供だけでもお願いしたい。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 委員おっしゃいますように、先ほどの2県2市とJRで協議しているものについては、利用促進を議題として協議をしている会議ですよということで前提を持たない、存続の在り方については、協議をしませんよということで、自治体側からは話をしております。これに対してJRは国と相談をさせてもらいたいということで、国土交通省に相談されておられるように聞いております。今後につきましては、国土交通省が招聘した昨年の有識者会議で提言をされました、国が行司役となって交通事業者と地元自治体と存続するのか、代替にするのかという話をしていく枠組みをつくられて、これが実際に令和5年度中に法施行実施になると聞いております。その時期がいつなのかはまだ我々も聞いていないのですが、その制度が運用されていくようになれば、JRとすれば、正式にその場を設けてほしいという話をされるのだろうと思います。その場というのが再構築協議会と言われておりますけれども、その再構築協議会の中で自治体・国・JRが同じテーブルに着いて協議していくことになろうかと思います。自治体側とすれば国は単なる行司役ではなくて、しっかりかかわってもらって、実証実験をやっていくことになれば、お金も出してほしいと。予算もとって、そういうものを実施できるようにしてほしいという要望はしておりますので、私が知っている情報で言いましたら、そういう状況かなと思っております。

○桂藤和夫委員長 政野委員。

○政野太委員 私は先ほどの続きになるのですが、あくまで観光の視点として、コロナも今後ゴールデンウィーク以降、5類になるという情報もある中で、現在廃線になるという情報が世間に

流れていて、それ以降、非常に乗客がふえている。これはあくまで観光のお客さんではありますけれども、乗客がふえている状況にあると思います。ただ今回このツアーも計画される中で、いわゆる特需の状態ではないかと思うのです。廃線になる、ならないというのは別の議論になると思うのですが、これを利用して観光促進をどんどん進めていくことが今回のこの観光利用による利用客増に関する大事なことだと思います。できればもっと積極的に、DMOさんになると思うのですけれども、せめてDMOにかかる人件費、あるいは広告費にかかるそれが黒字になるような目標を立てていただきたいと思うのです。来年度に向けて、その目標自体が既に赤字の状態、もうサービス状態のようなことになっているのか。その辺をお聞きしたいのと、駅に降りていただいて、そのあとの二次交通が非常に重要ですが、いかにそのお客様が、庄原市内の観光に足を運んでいただけるか。さらにはその準備がどのように整っているのか。今僕が感じているのは、その協議会の中でのイベントだけという状況で、その他の観光の組み合わせが余り見えてこないような気がするのですけれども、それについての考えを2点お聞かせいただければと思います。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 まず1点目のDMOをお願いしております「ローカルダイブ」の収支でございますが、黒字を出してやっていただくという状況には今のところなっておりません。来年度につきましても、全てを一遍にお願いできるかといふとなかなか難しい状況ではないだろうかと思います。庄原DMOの課題としては、庄原地域にありますので、広島であったり、全国への情報発信であったりといふところがなかなか難しい。そこらの部分については行政で経費を負担しながらノウハウも蓄積してもらいながら、自走に向けた取り組みを考えてほしいと思っております。それから、2点目の受け入れの準備でございますけれども、今回「ローカルダイブ・トレイン」を8月に実施しております。細かく言いますと西城の八鳥地域、熊野地域、油木地域と、三つ西城ではやっております。それから東城では帝釈、それから比和では三河内の棚田を見に行くツアーを組んでおります。この「ローカルダイブ・トレイン」の特徴としましては、地元の方にしっかり携わってもらって、ほかのツアーにはない味わい深いといひますか、ここでしか、このツアーでないと味わえないものを味わってもらおうということで、地元の方とも話をして受け入れの体制をつくってまいりました。例えば、油木でやりましたツアーは、油木の高原さんという方がどぶろくをつくっておられますが、そのどぶろくを瓶に詰める体験をしてもらうことをしております。八鳥でやりましたツアーは、まず受け入れをしまして、田んぼの溝を見に行き、西城川から引き込んでいる水路を、このように水を引き込んでいるのだよという日常的な水管理も見ていただいて。これが果たして喜んでもらえるのかどうかも実証実験としてやってみようということだったのでありますが、非常によかったです。最後、砂鉄の金屎が残っているので、そこらを溝の中から探して持って帰ってもらったというような少し特徴的な取り組みをさせてもらっております。そのほかも、その地域ならではのものをさせてもらったのですが、今年度はそういう受け入れ体制を市が中心となって折衝などもさせてもらいました。今後については、DMOも一緒にやっておりますので、DMOが地域に入っていくと、そういう地元の人との受け入れ体制の調整という部分もやってもらいたいと思っております。3月に実施する部分については、ある意味DMOに主体的にやってもらうように段取りを進めているところです。

○桂藤和夫委員長 他にありませんか。横路委員。

○横路政之委員 芸備線で100円もうけるのに2万円以上かかっているところは、東城から落合かな。ここが最悪という数字が出ているのですけれども、どうも最近、乗っている人が多い。これは分析されたことはありますか。何でこんなに多いのだろうかとか。そういうことを少し分析されて利用客増、また観光とか、鉄道関係の人かという思いをしているのだけれども、そこら辺のアイデアも出していくべきではないかと。鉄道ファンの人は全国から来ますから。本当にすごいと思うのですが、どうですか。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 横路委員が言われるように、特に青春18切符が使える時期は、非常に多い状況です。周遊切符ですね。これは春休みとか夏休み、正月あたりが使える時期ですので、その時期は非常に多いという状況です。言われるように鉄道ファンの方が、特に廃線の危機が迫っているところには、廃線の前に乗っておこうという方がおられる。YouTubeで鉄道ファンの方がいろんな情報発信をされておられるのですけれども、そうした動画を見ても、今の芸備線のこの区域の乗客の多さというのは、観光地に来ている観光客ではなくて、危機感であるとか、乗っておきたいという鉄道ファンの方がかなり乗っておられると分析をされているのを聞いております。やはりそうなのだろうかと我々も認識しております。

○桂藤和夫委員長 他にありませんか。政野委員。

○政野太委員 どうしてもこの観光というところに今回ここはやろうとしているわけですから、せめて目標ぐらいいは、どうやったら黒字になるのかということは計画を立てられるべきだと思うのです。それが結果できる、できないというのはまた別問題であって、それでもやるのだということ、なぜやるのかということをもっと明確にもう少し市民の方に説明すべきだと思うのです。その中で、観光で乗られた方は、JRはカウントしないと。カウントというか日常の利用をメインに考えていくということの中で、もっと観光で、先ほど横路委員が言われたことと同じなのです。僕も言いましたけれども、今ふえているのですよ、実際に。JRはカウントしないけれどもふえている。それをいかに取り込んで、この計画を黒字にするのかということをお断りしてはいけないと思うので、それについてはどのようにお考えですか。黒字にしなくてもいいのだという考えではなからやるのか。とにかく利用客をふやすということをいつまで続けていくのか。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 黒字にしていく計画というのは、路線ということではなく、ツアーということですね。ツアーについては、来年度である程度結果を見て、6年度からは自走でやってもらうということは、令和6年度からは黒字を出してやってもらう算段を令和5年度の中でしてもらおうと考えております。令和5年度についてはそこまではなかなか一遍にはいかないの、令和4年度にまず「ローカルダイブ」というものやってみて、どうだったかということをお断りして令和5年度で少し延ばして行って、令和6年度からは自走ということで計画を立てているところです。

○桂藤和夫委員長 副委員長。

○吉川遂也副委員長 黒字化という話と横路委員の乗っておられる方が多いということと、当然、廃線という話が目に見えてくるとまだふえる可能性もある。現状でいうと、やはり乗っておられるだけなのです。乗って通過するか、また折り返して新見から三次まで行って、また三次から新見へ行って、そのまま八雲で帰るとかというようなことで、正直あまりお金を落とさせていただいていない

のが現実だと思います。それからもう一つは、いわゆる撮り鉄という方、路線の写真を撮られる方が、結構ちらほら以上に見えるようになってきているのです。だんだんこれがふえてこられると、写真を撮られるだけなので、これも当然観光振興として特にそんなにお金を使っていたらという状況にはなりにくい話でもある。もっと言えば、例えば、菜の花が咲いているところに芸備線が通ってという写真を撮りたいがために、他人の敷地、畑を踏み荒らすとか木を切るとかよく問題になりますけれども、そういったところが今後可能性としてはかなり出てくる。今でも歩道に車を乗り上げて止めて、そばの花と一緒にというところを撮るために、他人の田んぼのあぜを通ってというのはよく見られる話。観光振興をしながら、それは地元にとって非常に迷惑な話なので、その辺のバランスもとらないといけないと思います。そこまでの話が出てきたら市が何か案内をするのかという想定は、今のところはされているのかいないのか、少しお話を聞かせてほしい。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 肌感覚で言うと、かなり撮り鉄の方もふえてきておられると思っております。実際に迷惑だと、勘弁してくれみたいな苦情をまだ私も聞いていないので、マナーを守りながら趣味の写真を撮ってもらいたいと思っております。よその事例を見ますと、例えばSL山口号の沿線で言ったら、ここなら写真を撮っていいという場所をつくったと聞いております。ここらも想定しながら、まず来てもらうというのは、重要なことだと思うので、地元とのトラブルがないように写真を撮ってもらって、来ていただければお金を落としていただけるチャンスもふえると思います。そうなれば、お店であるとかお土産であるとか、そういったところでお金を落としてもらう仕組みをつくっていくのが観光の産業なのかと思っております。今のところは具体的な取り組みはしておりませんが、一応想定とすれば、そういったところかと思っております。

○桂藤和夫委員長 副委員長。

○吉川遂也副委員長 言われたようにここは撮ってもいいという場所をまず選定することは非常に大事なことだと思います。来ていただく方になるべく、弁当を買ってもらうでもいいし、お土産を買ってもらうでもいいし。数としては赤字というのはないですね、勝手に来てもらっている。一般の市民からすると、庄原市の税金を使って事業をするからには、やはりそれに返ってくるものがないと。ただ単に、例えば広島市内の人がツアーで乗って来て、30人が楽しめましたよと終わっても、庄原の一般の事業家にとっては特に何のメリットもなかったという話では、継続できない話になってくると思う。費用をかけずに来ていただいている人にいかに使ってもらって、あわよくば泊まってもらう流れをある程度、主軸で考えられるほうが効率的だし、費用のかけ方としてはいいのではないかと僕は個人的に思います。その辺も今後どんどんそういった関係の人がふえることを想定して、事業展開をしていただければと思います。

○桂藤和夫委員長 横路委員。

○横路政之委員 議員のOBの方でも鉄道の写真を撮るのがすごい方。ああいう方の心理状態。私たちにはわからない。そういう人の助言を聞くことも一理かと思っておりますので、やってみてください。

○桂藤和夫委員長 他にありませんか。堀井委員。

○堀井秀昭委員 いろんな意見が出ているのだけれども、最終的な目標は、芸備線の存続。ここどのようにつなげていくかということを目標にさまざまな事業をやっているわけで、その一つの手段

として、観光利用によって乗降客をふやそうということでこの取り組みがなされていると思うのだけれども、二次交通の整備がついていかない状況で観光振興での利用増は大変難しいだろうと改めて思っております。そうすると芸備線を存続するためには、次はどうすればいいのかという議論が始まるだろうと思うのだけれども、ある程度、市の予算を投入して2年なり3年なりで、その実績・効果を集計する中で一定の決着は着けないといけないだろうと思います。もう5年も10年もダラダラとやってみるという事業ではない。それから先ほども意見が出ておりましたが、観光事業者にとって、市が予算を投入しながら進めているプロダクトの開発であるとかツアーの実施等による効果というものが、庄原市民に実感としてあるのかないのかということも大変重要な要件になる。その辺りもまとめた上で、一定の取り組みを総括しないとイケないだろうと思います。基本的に時々ツアーでお客さんが乗られる程度の取り組みで、今JR西日本との存続協議の中では、大した効果は実質ないだろうと思いますから、それならそれで次の手段を考えないとイケない。先ほど課長が言われたように、国がある程度乗り出す体制をとりつつあるという報道は私たちも目にしていますから、その辺りをどういった形で残していくかという協議を並行して、やるべきだと思います。要は、いかなる赤字になろうとも庄原市にとって芸備線は病院と一緒に、なくてはならないものとしての認識をどのように市民の方に持っていただけるかということをやはり確立していかないと。これから先、市の予算が大きく投入される事態が起こるだろうと思いますから、芸備線は必ず残すのだと市民の方に認識を持っていただけるように促進していくような政策をあわせてやるべきではないかと提言しておきます。今回は観光利用によることなので、少し違う話にしているのだけれども、基本的にはこの2年間の事業実施によって芸備線の存続へ向けての手段として観光振興では無理があると捉える時期は近いうちに必要だろうと思いますから、もう少し考え方を考えてみる必要があるのではないですか。課長、どう思われますか。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 芸備線の課題としては、日常利用を伸ばしていきたいという部分がありますけれども、人口の減少、また今のダイヤの中で利用を伸ばすというのは非常に厳しい状況にあると考えております。その中で、庄原市の魅力を発信しながら観光で来てもらえる方に乗ってもらおうと。観光で利用される方がおられる、プラス、日常利用もしっかりやっていく中で、芸備線の価値というものを市民の方、沿線、また、国民全体の方に認識をしてもらって、ネットワークとして、社会インフラとして、この芸備線はなくてはイケないというところをしっかりと認識してもらえるように我々も取り組みをしたいと思っております。我々観光担当になりますので、今、委員の皆さんから言われた意見も参考にさせていただきながら、できる限りの取り組みをする中で、芸備線の価値というものをしっかりと皆さんに知っていただき、沿線、地元にお金が落ちる仕組みをしっかりとくっていききたいと思っております。

○桂藤和夫委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 わかるのだけれども、観光の面での利用促進を図っていくには、問題は二次交通の体制整備だろうと思う。駅に降りてタクシーもなければ、バスもない。時々募集されたツアーに乗ったときには準備していただいているというのでは、あまりよくないと思う。例えば西城駅、庄原駅、高駅、平子駅、比婆山駅等を駅ごとに経由しながら、比和へ回ってまた庄原へ戻る定期交通路線の確保とか、そこからまた道後山駅、小奴可を通りながら東城を回って帝釈を通過して庄原へ戻っ

てくる路線の確保であるとか。芸備線に乗って、あそこの駅まで行けば庄原市内を周遊できるバス路線があるというところを確立しないと、観光利用は伸びないだろうと思いますから、そこら辺のところも今後検討してみてください。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 確かに二次交通がないと芸備線に乗られる方は車に乗ってこれませんので、そこからの交通機関が重要になろうかと思えます。そうしたことから帝釈峡のお客さんが望める時期に臨時の貸し切りバスを運行してみました。土日祝に限っての運行でございましたけれども、コースとすれば、備後庄原駅を10時に出て、そのあと上帝釈へ行って、上帝釈から下帝釈、下帝釈から東城駅という動きにさせていただきました。このバスで言いますと、庄原から上帝釈に行く直接の便は現在ない状況なので、先ほども少しお話しさせていただきましたけれども、72人の方に利用していただきました。あと下帝釈と上帝釈をつなぐ便もないというところがありまして、雄橋を見られた後に遊覧線に乗る方の足にはなったのかと思っております。試行実施ということでやらせてもらいまして、来年度については、備北交通さんとも話をし、ずっと赤字を出しながら運行してもらおうのは難しいので、紅葉の時期だけでも定期便として備北交通が運行していくような流れでできないかと。令和4年度でやったこの実証実験をもとにやってみたらどうかというところは協議していきたいと思っております。来年度については、そこからまた少し幅を広げて、比婆山とか三河内の棚田とかそういったところへ行けるバスの実験をやりたいと思っております。

○桂藤和夫委員長堀井委員。

○堀井秀昭委員 やってみたいという発言があったので期待はします。全国の観光地を見ても、季節運行の定期路線を要所要所でつくっていくという事業はいろいろやっています。そういった定期運行路線でいいと思う。年中毎日というわけにはいかないの。季節を限定して定期路線が走りまわすということを宣伝して周知をした上でやっていけば、ある程度の赤字部分は、行政が補填をすることもやむを得ないという覚悟の上で取り組めば、やれるのではないかと思いますから、ぜひ頑張ってみてください。

○桂藤和夫委員長 他にありませんか。副委員長。

○吉川遂也副委員長 梅木プロデューサーは今年度、利用促進についてどういう動きをされたのか、分かる範囲で報告を。

○桂藤和夫委員長 課長。

○足羽幸宏いちばんづくり課長 観光の部分で言いますと「ローカルダイブ・トレイン」の企画の部分にしっかり携わってもらっております。5か所でやりますけれども、その中でのプログラムをどのようにやっていけばいいのかというところは、しっかりは中に入っていて助言をいただく中でやっております。また、観光連盟にお勤めでしたので、観光連盟にもつないでいただいて、「ローカルダイブ」に来ていただける方の想定をして、こういったプログラムが果たして刺さるのかどうかといったところも一緒に議論・検討しております。それから観光プロダクト開発につきましても、これもしっかり携わっていただいております。まずは、ワーキングチームの設置に向けた、実施をしていただく方の巻き込みをやっていかないといけないといった指導もしていただいている状況でございます。また、シンポジウムではパネラーのコーディネートをしていただいたところでございます。

- 桂藤和夫委員長 横路委員。
- 横路政之委員 梅木さんの任期はいつまで。
- 桂藤和夫委員長 課長。
- 足羽幸宏いちばんづくり課長 年度ごとにプロデューサー業務を委託しておりますので、1年ごとの更新になります。
- 桂藤和夫委員長 この事業の取り組みにつきまして、観光プロダクト事業開発はDMOを中心にされていますけれども、庁内でもいろんな考えを持った職員さんもいらっしゃるのではないかと思います。庁内での議論の場とか大学生、高校生、中学生ぐらいまでの若者の声を聞いて取り込んだり、人口減少をとことん考える民間会議等へも働きかけたり、オール庄原体制でこの事業に取り組んでいただきたいというのが1点ございます。2点目が庄原駅を降りて、現在備北交通さんがいろんな観光案内的な事業もされていますけれども、いろんなニーズの方が来られて十分対応しきれてないこともあるのだそうです。その辺のところにつきましてもよく話し合っていて、市で協力できる場所があれば、そういう声にも耳を傾けて取り組んでいただきたいということを考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。課長。
- 足羽幸宏いちばんづくり課長 庄原駅での観光案内は人が常駐していないものですから、なかなかできていない部分はあるまして、この秋にMa a S協議会が、Ma a Sではあるのですが、観光も含めた困り事があれば、この電話番号に電話してくれということで、100件ぐらいのさまざまな問い合わせがあつて、対応されております。そういったところも実績を見ながら、対応についても検討を商工観光課と一緒にしていきたいと思つております。
- 桂藤和夫委員長 他にありませんか。ないようですので、これで質疑を終結いたします。足羽課長ありがとうございました。暫時休憩します。

[執行者 退席]

午前11時25分 休 憩

午前11時29分 再 開

- 桂藤和夫委員長 それでは委員会を再開します。先ほどから観光振興におけるJR芸備線について議論しましたが、委員長報告にこれだけは入れてほしいという事項があればお聞きをまとめてほしいと思ひます。御意見はございますか。堀井委員。
- 堀井秀昭委員 駅からの二次交通。ここに庄原市として積極的に取り組まないと、ツアーで10人20人連れてきたぐらいでは観光振興にはつながらないと思ひます。季節限定でもいいから定期的な二次交通路線の確保をまずやってみる必要があるのではないかとすることをぜひ入れてほしい。
- 桂藤和夫委員長 他にありますか。松本委員。
- 松本みのり委員 モニターツアーについても黒字の目標はしっかり立てていくべきではないかというを入れておいていただきたいと思ひます。
- 桂藤和夫委員長 横路委員。
- 横路政之委員 機運の醸成。庄原市の自己負担が仮に発生した場合。

- 桂藤和夫委員長　　ほかにありますか。政野委員。
- 政野太委員　　今、観光特需いろんな意味であると思うのですよ。それから今回大阪の店じまいセールではないですけれども、特需として捉えて、観光振興をもっと積極的に進めることができるのではないかと。
- 桂藤和夫委員長　　今承った御意見を入れながら、正副委員長でまとめたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。協議事項の2点目に入りますけれども、残りの所管事務調査、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済対策についてと和牛振興についての今後の調査と、次回の委員会の開催日程について協議したいと思います。副委員長。
- 吉川遂也副委員長　　和牛振興について、農業振興課とそれから全農畜産部にお願ひして、今年度の全共のまとめと今後の取り組みについてのお話を聞ければと思います。2月中ぐらいで検討させていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。
- 桂藤和夫委員長　　新型コロナについては、これは特に委員会開かなくても、今までの議論とか市のやっている成果を踏まえて報告させていただいていいでしょうか。それではその辺は正副委員長でまとめたいと思いますのでよろしくお願ひします。政野委員。
- 政野太委員　　先ほど堀井委員が言われたように成果もあったと思うのですけれども、明らかに後手に回ったという部分もあったと思うので、その辺については指摘もしていただければと思います。
- 桂藤和夫委員長　　課題、問題点ですね。五島委員。
- 五島誠委員　　正副委員長でまとめていただいて、最後に皆さんでつけ加えたりすれば。
- 桂藤和夫委員長　　分かりました。見ていただいて、また御意見を承って最終的に報告。副委員長。
- 吉川遂也副委員長　　基本的には企画が出したコロナ対策事業について、一定の評価と課題等を出してというまとめになろうかと思いますが、そういった要領でよろしいですか。
- 桂藤和夫委員長　　そういう形でまとめさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上で、本日の企画建設常任会を散会します。ありがとうございました。

午前11時34分　　散　　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定によりここに署名する。

企画建設常任委員会

委員長